

第3回 桧原山荘運営検討委員会議事録(要約)

と き 令和8年6月15日(月)

ところ 社会福祉協議会2階会議室B

出席者 森委員長、小山副委員長、今井委員、亘理委員

1 現状の耐震と災害リスク

耐震強度の不足が指摘され、震度6以上の地震時には倒壊の可能性があるとの認識。

地全体が土砂災害警戒区域、一部は特別警戒区域であり、耐震補強を行っても災害リスクは残る。

安全性を最優先とした避難計画・耐震補強・建て替え、危険エリアの閉鎖検討が必要と指摘。

2 財政と修繕費の現状

前回見積りの修繕費用では十分ではないとの認識。事業の継続を考える場合、運営費の見積も甘さが課題。

ランニングコストを含めた財政計画の再検討が不可欠。

3 活用方針の主要案(市民からの意見募集の結果より)

市民に意見募集を行ったところ、1件の提案があった。

売却の選択肢を検討する可能性は残すものの、今回提示された意見は「安全性を前提に多機能化・高齢者参画・共同運営を推進する再設計」が核。

提案の4つの柱 1)安全性の確保(避難計画、耐震補強、建て替え、危険エリアの閉鎖等) 2)多機能型拠点への転換と高齢者の参画 3)共同運営と透明性のあるプロセス(行政・大学・福祉事業者・市民団体・シルバー人材センターなどとの協働) 4)段階的な整備と現実的な財政計画(全面建て替えではなく段階的改修、財政負担の抑制)

料金設定案として「1泊1万円～1万2千円程度」を想定、30年スパンで回収可能を示唆。

多機能化による利用者増を見込みつつ、現地の安全性・運用実現性を両立する設計が要望。

社協だけでなく行政、大学、福祉事業者、市民団体、シルバー人材センター等との共同運営モデルを検討。

財政負担の分担と専門性の確保を図ることが求められる。

4 その他の具体的論点

広場・野外炊事場の活用(一部テント設営場としての貸出検討、ただしトイレの課題あり)。

広場の規模が大きすぎる点と、地域交流と宿泊機能のバランスの難しさ。冬季の利用制約(冬季閉鎖など)と収支の影響。

日中の利用を中心とした日帰り施設の活案の検討可能性。

5 今後のスケジュールと場の運び方

次回10月頃の第4回の委員会にて委員会としての報告を諮る。

〈会議の概要〉

理事会開催前の進行確認。桧原山荘の現状課題(安全性・耐震不足、敷地の災害リスク、修繕費・運営費の見込み、広場・駐車場の補修の必要性)と、今後の活用方針を検討するための議論を実施。

現時点では耐震補強以外にも大規模な補修・改修費用が必要であり、予定している1,200万円では請負業者確保が難しい可能性。

市民からの意見募集では、全面補修・改修や売却の二択だけではなく、段階的整備を組み合わせる三択の案が提案された。

今後の進め方は、10月頃に開催予定の第4回会議に事務局案として、全面補修・改修、一部補修・改修、事業終了・売却の3つ方向性を示すこととした。